



長崎県生活学校連絡協議会パッチ

生活学校 ながさき

—第18号—

長崎県生活学校連絡協議会

住所 長崎市大黒町3-1 長崎交通産業ビル4F

電話 095-821-1901

FAX 095-821-0901

発行

長崎県新生活運動協議会

HP <http://www.nagasaki-newlife.net>

あしたのまち、くらしづくり

全国フォーラムに参加して

長崎県生活学校連絡協議会会長

中原 松代

11月15日、16日 国立オリンピック

ク青少年総合センターで行われまし

た。1日目は分科会、5分科会で対議

が行われました。私は、第3分科会、

生活学校ルネッサンス部会へ参加し

ました。この分科会は3年間で1つの

目標を見出そうと云うことで今年は

最終年でした。是非参加して欲しいと

の依頼がありました。分科会では次の

ようなことが決まりました。

1. 震災後の支援活動をする。

2. 宮城県の生活学校が仮設住宅の

人々に「ひまわりアクリルたわ

し」の作り方を指導し、全国ネッ

トで販売する。

3. 「心に寄り添う全国活動を展開す

る」例えば子育て支援、心を開く

活動、おしゃべりサロン、手作り

を楽しむ会、健康教室、買い物お

助け隊、お食事会。

4. マスコと積極的に連絡を取り、活

動を社会的にアピールする努力

をする。要するに、地域社会の構

築を図ると云うこと。夜は交流会

があり、鳩山前首相がみえられ、

生活学校を創立されたのは祖父、

一郎氏だったので頑張つて欲し

いとのことでした。2回目は、全

体会、復興支援に向け、早稲田

大学教授、鳥越皓之氏の講演があ

りました。阪神淡路大震災被災地

域の活動の経験を持たれた先生

のお話があり興味深く聞きまし

た。午後から都道府県連会長会議

が行われました。

平成23年度第2回都道府県

生活学校代表者会議

日時 平成23年11月16日(水)

13:00~15:30

会場 国立オリンピック記念青年

センター総合センター

センター棟 401

協議内容

1. 東日本震災復興支援全国運動・

廃校対策について(協会より)

2. ルネッサンス分科会より提案

地域社会の構築を図ろう。

3. 全国生活学校連絡協議会24年度

会長候補者の選出

近畿地区岐阜県 金山さんが

選出されました。

4. 新規校助成金のお渡し

5. 生活学校パンフレットについて
6. その他

たんぼぼ生活学校再校へ

たんぼぼ生活学校 中尾信子

たんぼぼ生活学校は、平成16年

18年の間、活動していましたが、代

表が一年間和歌山に行くことになり、

休校していました。今、町内では、

ほとんど行事も開催されておらず、

女性たちの交流の場がありません。

特に今年は、東日本大震災で地域の

絆の大切さが叫ばれている中でもあ

り、今年から町内の女性に再校に向

けて声かけをしたところ10数名の方

たちが集まって再校することにな

りました。専業農家の方も入会され、

もちろん消費者として非常に心強く

感じております。たんぼぼ生活学校

として最初に取り組んだのが、7月

23日に段ボールコンポストの学習

会でした。ゴミの4割とも言われて

いる生ゴミを土に返していく。一

生ごみは宝々をすることで、佐世保市

のゴミ削減に繋がっていく。11月13日

に県大会のテーマでもあった食育の

学習会を開きました。20数名の参加で

した。参加された方の感想は、非常に

好評でこの学習会をきっかけに味噌づくりをしたいという会員の要望に応えて12月15日に県内産の材料を使つての味噌づくりを開催しました。みんなで楽しく取り組むことができた。2〜3カ月後に食べられると楽しみにしています。これからも定期的に作りたいと希望も出されています。これからも身近な問題として介護学習など計画しています。毎月の定例会は、各委員の話で盛り上がり、みんな楽しみに参加しています。あとひと回り広げて地域の交流の場になればいいなと思うこの頃です。



生活学校の目標

さつき生活学校 栗林多喜子

生活学校って何？ どんな事をするの？ という質問を時々受けます。さつき生活学校は婦人会活動の中から、自分達の生活に役立つことをもう少し積極的に学んでみたいという仲間が集まってできた会です。二十年以上前からゴミの減量と食品の安全には大きな問題意識をもって取り組んできました。そして、子供が少なくなった今、地域での子育ても私たちの出来るかもしれないことのひとつになってきました。現在取り組んでいるテーマは、**環境問題** ①生ゴミの再生とそれを利用した野菜づくり。②EM活性液の利用法の研究 ③マイバツク運動によるレジ袋削減 ④環境に配慮された施設の見学 **地域の活性化** ①わんぱく広場を通じて子育て支援②高齢者との手作り昼食会③バザー、バザーの収益は社会福祉協議会を通して歳末助け合い運動に寄付しています。また、毎月一度、最終月曜日に公民館に集まり、EMボカシを作つて分け合っています。会員数70名ですが、ほとんど20名以上の参加があります。また、施設見学として

これまで、廃タイヤやペットボトルのリサイクル工場、ごみ処理場ボカシを使つて野菜を育てている農場などにいつてきました。今年は太陽光発電や生ゴミ、水の処理の方法を見学するためにハウステンボに行つてきました。大きなことは出来なくても家庭生活を切り盛りする主婦として今の自分の生活を見直すこと、そして子供たちの生活を守るために出来ることを見つけて、実践して行きたいと思っています。

生活学校活動に参加して

玉之浦生活学校 旭梶山千代子

私たちが、生活学校活動の活動を始めて何年になるだろうか？ 一度きりと考える機会ができ、新たに活動を見直す時期に来ている今日ではないかと思っています。玉之浦連合婦人会から引き続き8年になり、基本的な活動としまして、環境整備とし、花いっぱいづくり・生ゴミの堆肥化を中心に活動を行っています。市町村合併前は役所にも指導機関がありましたので、いろいろな、例えば、このような活動をしたけれど、講師の先生を探してと相談すると、すぐに、探してくれたり、

チラシを作り、文化祭等で使いたいと相談すれば、すぐにアドバイスをしてくれたりと、大変活動がやりやすかつたのですが、合併して規模が小さくなり、専門の担当がいなくなり最近では、市の職員でも生活学校を知っている職員も少なくなつてしまいました。このような状況の中、何とか会員を確保はしていますが、私たち、生活学校独自の活動が年々出来ない状況にあります。そこで、

私は、生活学校だけではなく、どこかの団体と一緒に活動しては？ と考え、今回、昨年の12月に玉之浦地区育成協議会と合併で餅つき大会をしました。玉之浦地区も小学校が28名と少なく、私たち年配の経験も必要とされ、有意義な一日でし



た。また、公民館講座でばかりの作り
方等の講座も開かれ、地域と一体にな
って活動すれば、活動もしやすくなる
と最近では思っています。これからも
生活学校を通し、地域に密着した活動
を続けて行こうと思います。

かなや生活学校のあゆみ

かなや生活学校 山田まさこ

諫早のかなや生活学校は、昭和63年
金谷町という小さな町で30名の会員
を集め、町の方の要望で発足しました。
でも、現在の名簿の中に8名しか残っ
ていません。しかし、現在は、40名に
増え、年間行事をやり遂げています。
諫早市の表彰、県の表彰、国の表彰を
頂いて、皆、ハッスルした時もありま
したが、年齢が高くなったり、転居、
死亡等で会員が減って行ったりしま
した。しかし、ボカシ作りで、諫早市
のエフ・ピコ等の行事で、私達の生活
学校がボカシ作りの実演とか、できた
ボカシを使ってもらったりしたのが
きっかけで入会される人が増えたり
したのです。増減は何とか切り抜けて
楽しい行事、研修旅行、新年宴会も取
り入れ楽しんでおります。今年度にな
って、私自信が身体の調子が悪く、入

院したのです。年齢が高くなると思っ
ように行事に参加もできなくなる時
もあります。現在、何とか行事だけは
皆の助けを借りてやって行こうと思
っているのですが、後継者に困ってい
る状態です。私自信88歳を超えてしま
いました。せつかくここまで続いた生
活学校を壊したくない想いでいっぱ
いです。二月の役員会に、みんなの意
見をよく聞き、みんなと話し合っ
り良き、生活学校の活路を見出したい
と思っております。長年続けた女性だ
からやれたのだと感謝しながらも、こ
れからの道を本当に有意義に進んで
いくか考える時期に来たのではない
かと思っています。県の指導
者の知恵をお借りして、今後の歩みを
考えたいと思っております。



一日婦人議会開催

大村生活学校 永野栄子

去る、平成23年11月18日(金)第26
回一日婦人会が開催されました。当日
はあいにく大雨が降っていて心配さ
れましたが、思いもよらず沢山の方々
の参加がありました。「女性の声を行
政へ」を合言葉に、地方自治行政の学
習会をつくり、住みよく、明るく、ふ
れあい豊かな町づくりを目指し、諸問
題解決の糸口を探ることを目的とし
て開催致しました。社会参画する良
い機会でもありました。開催要項に基
き、市長の挨拶始まり、来賓、答弁者、
一日婦人議員紹介があり、議会が始ま
りました。4名の質問議員と4名の補
助議員が並びます。ひとり約20分の持
ち時間で質問に立ち、行政からの回答
を受け、また、市長からも市としての
アドバースがありました。10項目の質
問に対する行政側からも懇切丁寧に
回答がなされ、私たちの身近な諸問題
に目を傾けて頂いたことに感謝いた
しました。質問項目のみを紹介いたし
ます。(1)自主防災組織について (2)愛
の鐘設置の状況について、オアシス運
動の推進について (3)学校設置の改
善について (4)市民プールの利用料

金について (5)小学生における、学校
給食用食器兼用トレイについて (6)
公証役場の存在と公正証書の重要性
について (7)高速道路バス乗り場へ
の階段の改善を (8)各小学校のソー
ラーパネルの費用効果について (9)
私立保育所の建物改善について 以
上参加者、市長、副市長、教育長、行
政11名、市議会議員11名、教育委員
2名、PTA会長、町内会長2名、
顧問2名、その他関係者全部で123人の
参加者でした。このように女性の視点
からの質問にたいして回答を頂き、最
後に副市長の挨拶があり、また、教育
長から講評の挨拶を受け無事に終了
いたしました。これからも私達の生活
の一助となりますよう期待致します。



退任の挨拶

長崎県生活学校連絡協議会

会長 中原松代

今年度で会長を退任させて頂くことになりました。これまで六年間もの長い間、ご支援頂きましたこと深く御礼申し上げます。振り返ってみますと、あしたの日本を創る協会主催の四日間ものリーダー養成講座に始まり、その年度の二月には急遽地域の団体を巻き込み、あしたの町づくり長崎大会の開催、三年間に渡るレジ袋削減運動の削減枚数の把握、この運動には大変苦心いたしました。行政、事業所、マスメディアのご協力により大きな力を頂きました。それに、私達、生活学校が一丸となり取り組み社会を大きく動かす原動力となり、今日に至り皆様方と共に、達成感を味わうことができたのではないかと思います。九州地区研究大会長崎大会、東日本大震災復興支援運動と矢継ぎ早に忙しい毎年でしたが、幸運な時期を過ごさせて頂いたのではないかと感慨ひとしおです。県下の生活学校はどの学校も地域に根ざした活動をしていると私は自負して参りました。又、あしたの日本を創る協会中央推進委員の先

生方からも大変評価されて参りました。しかし、リーダー不足により学校数は減少の一途を辿り、私の努力不足を申し訳なく、心残りは致しますが、皆様方の支えにより、大過なく過ごさせて戴きましたこと感謝申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

平成23年度 生活学校・生活会議運動長崎県大会が開催されました。

日時：平成23年10月4日（火）

場所：佐世保市ホテル万松楼



講演 「今、なぜ食育なのか？」
～持続可能な地域の構築は食育から～
長崎県立大学副学長 木村 務

パネルディスカッション
テーマ 「食育について～食の現状を見据え、今、私たちに何ができるのか？」



主催者挨拶
長崎県生活学校連絡協議会長 中原松代

参加者 270名



ホテルロビーにて
各生活学校産品販売



平成23年度 生活学校・生活会議運動研究交流集会開催
平成23年10月3日（月）佐世保地区中部地区公民館